

## 關東大地震ニ因レル各地方火災

委員 今村 明恒

關東大地震ノ災害ノ大部分ハ、之ニ伴ツテ起ツタ大火災ニ依リテ占メラレタコトハ、顯著ナ事實デアツタ、少クモ東京ニ於テハサウデアツタ、後世或ハ大正ノ關東大地震ト言ハズシテ、關東大火災ト呼ブ様ニナルカモ知レナイ。

我々ハ東京大火災ノ餘リニ廣大ナリシガ爲メニ、動モスレバ他地方ノ火災ヲ忘レ勝チニナル、横濱ノ地震ガ東京ヨリモ激シカツタ割合ニ、火元ハ一層密ニ火足ハ一層急ニ災禍ハ一層甚カツタ、横須賀デモ市ノ重要部ハ全燒シ、重油ノ黒烟ハ幾日モ絶エナカツタ、小田原モ要部ガ燒失シ、鎌倉デハ長谷ノ大部分ヲ燒拂ヒ、厚木、秦野、眞鶴、浦賀等ノ神奈川縣下各町、並ニ千葉縣船形町等、何レ劣ラズ、震火ノ苛責ヲ蒙ツタ、關東大火災ノ忠實ナ記録ヲ作ルニハ、此等ノ各地方ヲ閑却シテハナラヌコト勿論デアルガ、唯此機會ニ於テハ、此等地方ノ火災ニツキ本會委員ノ調査ヲ纏メルコトガ出來ナカツタノハ遺憾デアル、止ムヲ得ズ此ニ概況ヲ報ジテ其責ヲ塞グコトニシタ。

大地震ガ丁度晝ノ炊事ノ刻限ニ起ツタノデ、火ハ關東一帯

各處カラ燃上リ、村落ニ於ケル小學校ノ藥品カラモ發火シタ位デアアル、伊豆眞鶴小學校ノ如キガ後者ノ例デアアル、然ルニ東京横濱ダケガ開闢未曾有ノ大火災トナツタノハ、此兩市ガ大都會デアツテ、家屋ガ密集シテ居タカラデアアル、大地震ニ遭遇シタトキノ心得ニ付、都會居住者ト村落居住者トニ相違アルベキコトハ、此點ダケデモ明カデアアル。

今關東各府縣ニ於ケル火災分布ノ状態ヲ見ルニ、静岡縣デハ震原地ニ近キ駿東郡ニ於テ御殿場、高根、北郷、足柄ノ各町村ニ於テ五棟燒失シ、東京府管内デハ、東京市本所・深川及ビ淺草・下谷ニ接續セル町ガ類燒ノ災ヲ蒙ツタ外ニ、千住・板橋・瀧野川・高田ニ於テ各、獨立ニ小火災ヲ起シ、千葉縣デハ山武郡デ數ヶ處ニ於テ合計十二棟燒失シタ外、火災ハ安房郡ノ各處ニ起ツタ、即チ船形町ノ大火災ヲ筆頭ニ、館山町ノ七十四棟、北條町ノ三十三棟ヲ次位ノモノトシ、他ハ神戸・館野・九重・稻都・富浦・千倉・千歲・豊田ノ諸村ニ於テ各、小火災ヲ起シタ、最後ニ神奈川縣ニ於テハ火災ノ分布最モ廣ク、之ヲ市郡別ニスルト、燒失棟數ガ次ノ通りデアアル。

横濱市五八九八一、横須賀市二二二〇、久良岐郡一、橋樹郡三、三浦郡四三三、鎌倉郡一〇一九、高座郡一三、中郡二九八、都筑郡三、愛甲郡二四四、津久井郡〇、足柄上郡七、足柄下郡二六六六

右ノ中、三浦郡ノモノハ横須賀附近ト浦賀ノモノトヲ主トシ  
 鎌倉郡ノモノハ鎌倉町、中郡ノモノハ秦野、愛甲郡ノハ厚木  
 足柄下郡ノハ小田原ト眞鶴トニ於ケルモノガ主デアアル、次ニ

大火災市町村被害統計表

市町村名	被害家屋數			死傷者數		備考
	住家	非住家	計	死	傷	
横濱	二七〇一九	三三六六	三〇三八五	二三四四〇	四二〇五三	晝食仕度中一般ニ火氣ヲ使用シ居リシ爲メ家屋倒壊ト共ニ發火シ當日ハ特ニ烈 風ナリシ爲メ防火ノ術ヲ失ヒ大火トナレリ。 晝食準備中倒潰家屋ノカマドヨリ發火ス。 料理店、別荘、齒科醫方等ヨリ發火ス。 藥品、藥乾燥場、炊事場等ヨリ發火セルモノ、如シ。 煙草乾燥季ナリシ爲メ家屋倒潰ト共ニ之ニ燃付キ水道及下水路破損大火トナル 晝食仕度中、家屋倒潰發火ス。小學校ニ於テハ化學藥品ヨリ發火ス。 鯉ノ漁季ニテ鯉節製造ノ爲メ盛ニ炭火ヲ起シ居リシ際家屋倒潰ト共ニ發火セリ
横須賀	一九六九	一一四	二〇八三	五三八	一六一五	
浦賀	九八	一七	一一五	七	三六	
鎌倉	四八九	七三	五六二	四一	四九五	
厚木	二四〇	四七七	七一七	一五	三〇	
秦野	二三二	六九六	九二八	二六	一四	
小田原	五二四六	四三八	五六八四	三七二	四七五	
眞鶴	七七二	一一〇	八八二	九五	八七	
船形	三五三	五二	四〇五	一三三	八六	

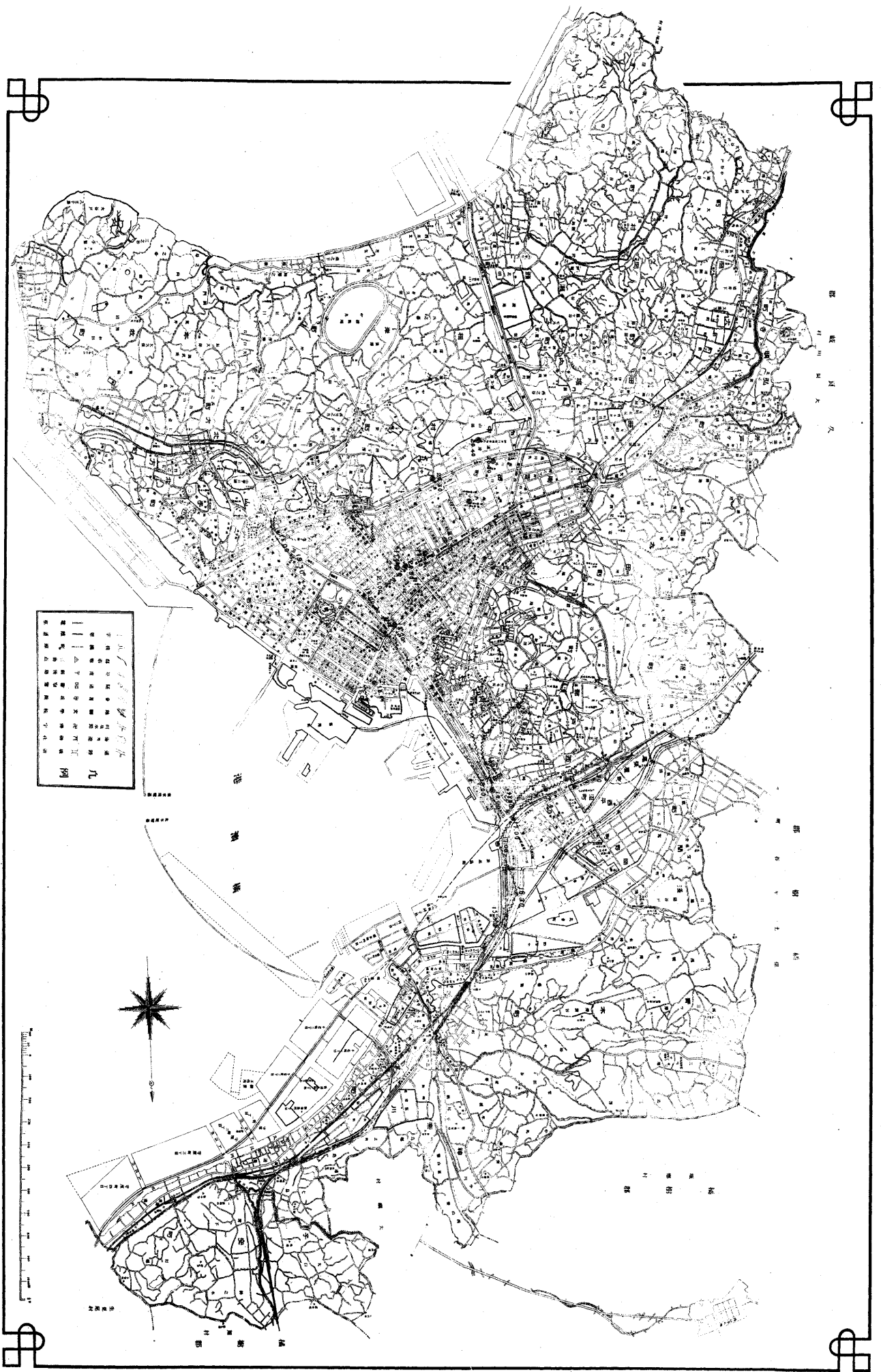
各地方ノ火災ニツイテハ前記ノ通りデアアルガ、唯横濱ニ就  
 イテハ、中央氣象臺技師藤原博士ト神奈川縣測候所員トガ協  
 カシテ火災ノ氣象學的調査ヲヤラレタノデ、其結果ヲ本報文  
 ニ轉載スルコトヲ許サレタノハ至幸デアツタ、此機會ヲ利用  
 シテ茲ニ謝意ヲ表スル。  
 最後ニ附加ヘテ置キタキハ、本報告書ニハ必ず缺クベカラ  
 ザル所ノ若干ノ寫眞ヲ載セルコトガ出來ナカツタ一事デア  
 ル、被服廠跡ヲ初メトシ、吉原其他ニ於ケル悲劇ハ、關東大震

此等主要ナ被害市町村ニ於ケル統計表ヲ掲ケ、又別ニ火災區  
 域圖ヲ添ヘル。

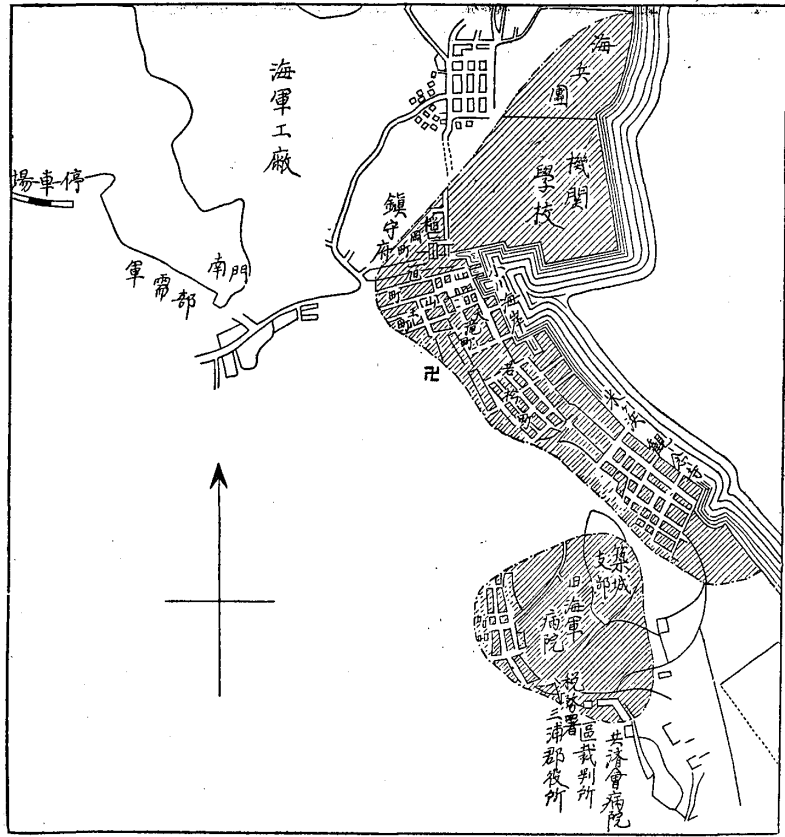
火災ヲ經驗シタモノニハ、決シテ忘レルコトノ出來ナイ印象  
 デアツテ、此等ノ人々ニハ右様ノ慘狀ヲ物語ル寫眞ヲ略シテ  
 モ差支ナイト思フガ、然シナガラ本報告ヲ我々ノ子孫ガ利用  
 スルニ際シテハ、右ノ如キ寫眞ガ最モ生々シタ觀念ヲ與ヘ、  
 最モ崇高ナ訓戒ヲ加フルコトニナルノデアアルノニ、之ヲ省ク  
 コトヲ餘儀ナクサレタコトハ實ニ遺憾ナ次第デアツタ、明曆  
 ノ大火ノ記事ヲ熟讀シテ見ルト、大川筋濱町河岸本願寺境内  
 ニ於テ旋風ガ起リ、此廣場ニ避難シテ居タ一萬ノ人民ヲ被服

# 橫濱濱火災圖

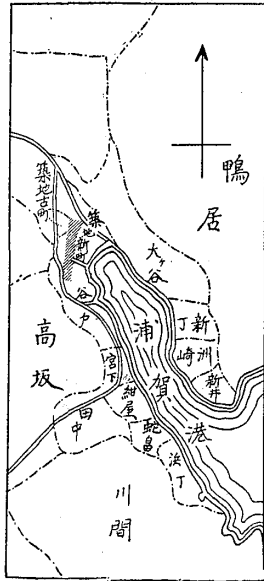
中央氣象臺神奈川縣所屬市役所(調查九)著 實色火災區域、折及線、元火、點、風、旋、點、字、其、時、刻



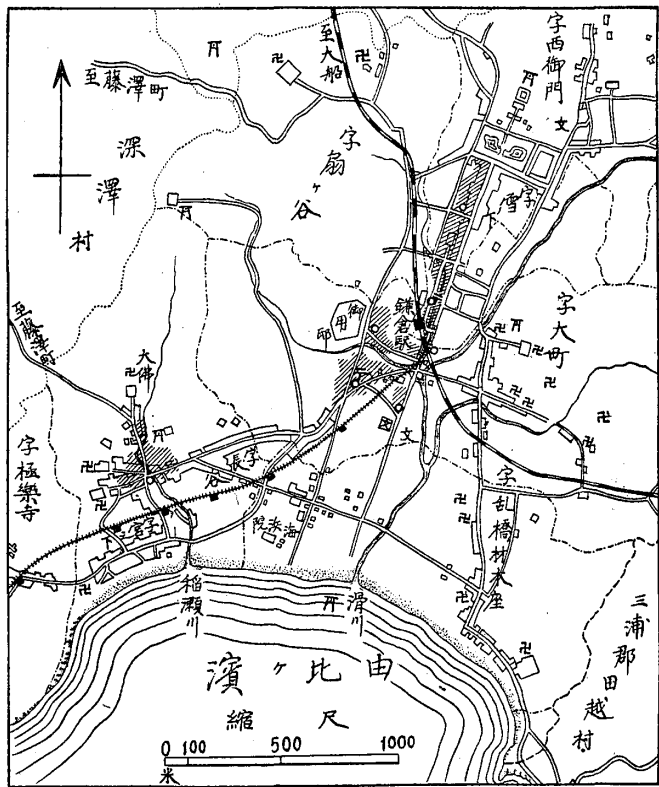
横須賀



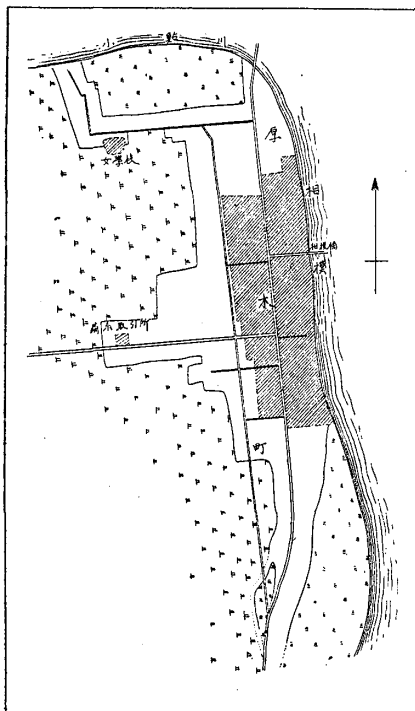
浦 賀



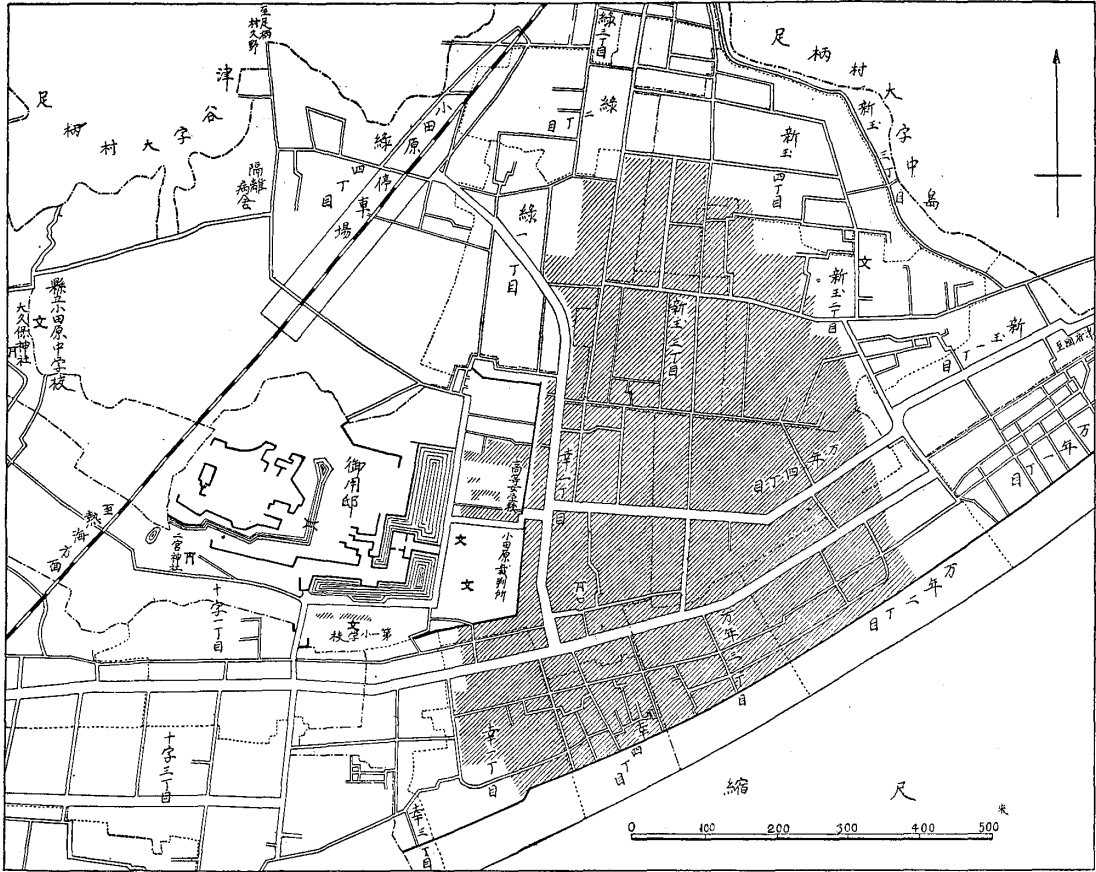
鎌倉



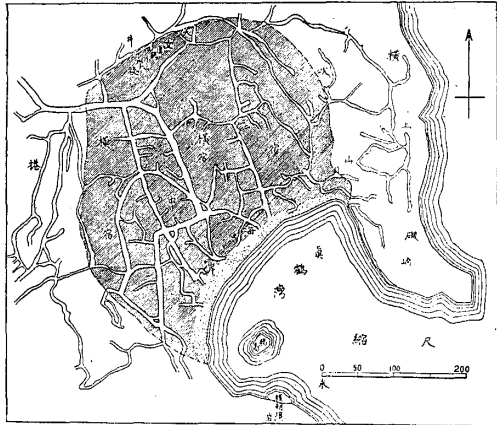
厚 木



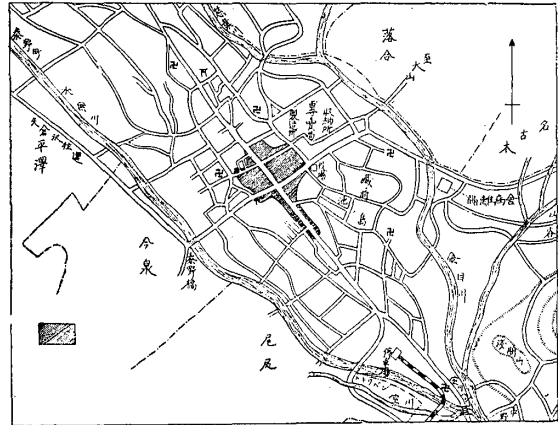
ス示ヲ城區失焼ハ部影陰



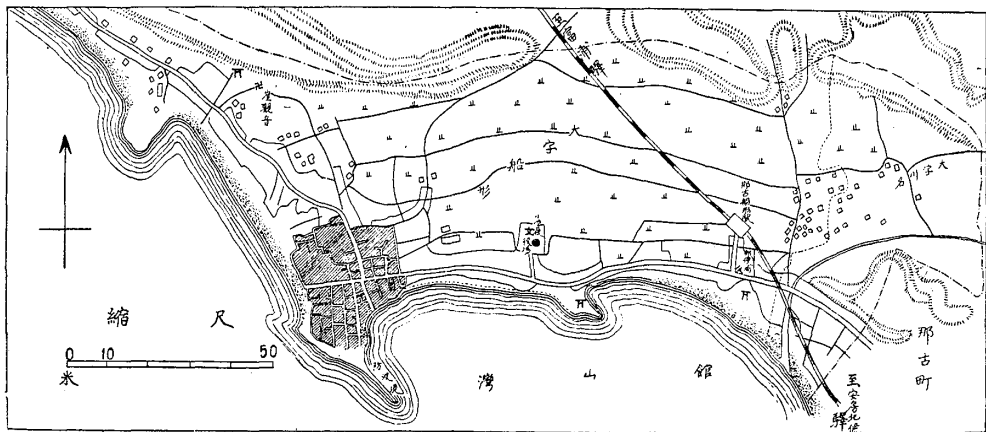
小田原



真鶴



秦野



船形

陰影部ハ焼失區域ヲ示ス

廠跡同様ノ運命ニ陥ラシメタ様デアル、若シ當時ノ慘狀ガ畫ニ依ツテデモ傳ハツテ居タラ、川筋ニ於テ袋形ヲナシタ廣場ガ旋風ヲ引寄セルコト、今回ノ經驗ヲ俟タナクテモ、明カニナツテ居タコトデアラウ、否々、健忘症ノ我同胞ハ既ニ大正ノ慘禍ヲモ忘レントシテ居ル、サレバ右様ノ慘狀ヲ實寫シテ後世ニ遺スコトハ、本報告ノ使命カラ考ヘテモ頗ル大切ナ事ナノデ、自分ハ本會幹事トシテ當局ノ諒解ヲ得ル様努力シタケレドモ、其目的ヲ達スルコトガ出來ナカツタノハ最大ノ恨事デアツタ、止ムヲ得ナイカラ茲ニサウシタ豫定デアツタコトヲ本報告ノ讀者ニ告白シテ置ク、但シ本會カラ各委員其他ヘ寄贈ノ報告書ニハ、此豫定ヲ少シク具體的ニ表ハス様ニシテアルカラ、此點ヲ諒トセラレタイ。

震災横死者ノ中ニハ地震ノ直接ノ影響タル壓死者アリ、間接ノ影響タル燒死者溺死者ガアル、又其燒死者ノ中ニモ致死ノ原因ニヨリ毒死窒死熱死ナドモアル、被服廠跡ニハ此ノ種ノ横死者ガ多カツタ様デアルガ、別ニ苦痛ノ跡モナク、稀ニハ笑顔ヲシタ屍體モアツタトノコトデアル、炭酸瓦斯ハ八百五十度以上デハ容易ニ一酸化炭素トナルコトカラ、毒瓦斯ガ之レデアツタコトモ想像シ得ラレル様デアリ、又旋風ニ襲ハレタ避難者ガ立上ルヤ否ヤ、パタリ／＼ト昏倒シタコトモ首肯セラレル様デアル（中村委員報文參照）。ソレデ泥土ヲ皮膚

ニ塗ルカ又ハ汚水ニ浸シタ片布ヲ被フカシテ、俯シニナツテ、此毒瓦斯ヤ或ハ極度ノ輻射熱ヲ防イダ人達ハ助カツタ様デアルガ、斯様ナ防禦法ヲ心得ザル人達ハ、大川ノ上ヤ或ハ吉原ノ辨天池ニ避難シナガラ助カラナカツタノデアアル、警視廳ノ統計表ニハ水上或ハ水中ノ斯様ナ燒死者ガ皆溺死者ノ部ニ入レテアル、大正大震災火災横死者ノ寫真ハ、此點ニツキ有益ナ教訓ヲ後世ニ貽スモノデナケレバナラヌ。

大正十四年三月 記ス

（影攝氏策調簡非日四月九）一 其 跡 廠 服 被



毒死或ハ窒死ノ屍體多カルベシ、衣類ノ燒ケサルモノト火膨レトニ注意セヨ

被服廠跡 其二 (九月四日井筒策氏撮影)



此邊黒焦ノ屍體アリ

此邊屍體少キハ泥土爲メニ免レタル由ニモラシキ

吾妻橋 下



此邊燒死者アリ



### 横濱ノ旋風 (藤原博士並ニ神奈川縣測候所調査)

概況、九月一日大震後間モナク十三時前後ニ火勢ニ煽ラレテ宮川町川岸ニ一小旋風發生シ、續イテ十三時半末吉町三丁目ニモ起リ、前者ハ進行シナカツタガ後者ハ北々東ニ向ツテ一五〇米内外進行シタ、之レヲ皮切リトシテ所々ニ旋風續發シ十六時—二十時ノ間ガ最モ猛烈デ、辛ウジテ火先キヲ避ケ

得テ漸ク安堵シタモノヤ、安全地帯ニ避難シツ、アツタ人等ニ火ヲ吹キカケ、燒殺シ或ハ負傷セシメタ、此日發生シタ旋風ノ總數ハ調査シ得タ分丈ケデモ二十個ヲ算シ、其中十七個ハ中心ガ進行シ、短キモ一〇〇米内外ヲ走り、長キハ實ニ二二〇〇米ヲ走過シタ、五〇〇米以上ノ生命ヲ保ツタモノハ七個、一〇〇〇米以上ノモノ三個ヲ算シタ、左ニ發生時刻順ニ其程度ヲ表示シテ見ヤウ。

發生順	發生時刻	消滅時刻	繼續時間	發生地點	終滅地點	行程(米)	進行方向	程度
一	一三、〇〇時	?	?	宮川町川岸		一五〇	北々東	小
二	一三、三〇	?	?	末吉町三丁目				中
三	十四時又ハ十五時	?	?	櫻木町驛前				小
四	一五、〇〇	一七、三〇	二時間以上	神奈川町元町	鹽田橋附近	一〇〇以上	東微北	大
五	一五、二〇	?	?	高島町八丁目		二、二〇〇	南西—南東—南西—西南西	小
六	一五、三〇	?	?	富士見耕地(南太田町)		一〇〇以上	東微北	大
七	一五、三〇	?	?	神奈川町宮之町				中
八	一五、三〇	?	?	東神奈川驛構内		二〇〇	東微北	中
九	一六、〇〇	?	?	公園内		二〇〇	北	中
十	一六、〇〇	?	?	地方裁判所内				中
十一	一六、〇〇	?	?	船渠會社内				小
十二	一六、〇〇	?	?	横濱橋附近				中
十三	一七、〇〇	?	?	不老町四丁目(千秋橋附近)		二〇〇	北々東	大
十四	一七、三〇	?	?	境町(公園北門)脇				中
十五	一八、〇〇	?	?	翁橋附近		一五〇	北	猛烈
十六	一八、〇〇	?	?	市役所裏				猛烈
十七	一八、〇〇	?	?	正金銀行西側		五〇〇	北西—吉田橋ニテ北々東	小

一五	二〇、四〇	二一、〇〇過	三十分以上	中村町揮發物貯庫	權三橋附近	五〇〇	北々東 東北東	大
一四	二〇、三〇	!	!	千秋橋				中
	二〇、三〇	!	!	長島橋				中
一三	二〇、〇〇頃	!	!	三吉町四丁目				大
	一九、三〇	?	?	櫻木町驛		二〇〇	南々西	中
一二	一九、三〇	!	!	山吹橋				小
	一九、三〇	?	?	吉濱橋南東方				大
一一	一九、〇〇	一九、三〇	三十分以上	扇橋壽警察署附近	野毛山太神宮附近	一、三〇〇	南々東—南々西—西南西—南西	猛烈
	一九、三〇	?	?	櫻木町七丁目		一五〇	南	中
一〇	一八、三〇	?	?	石川中町		五〇〇	北微西—一九時後西ニ變ズ	中
	一八、〇〇	!	!	同前(横濱驛前)	伊勢町四丁目附近	一、一〇〇	南南東—南—南西	猛烈
	一八、〇〇	!	!	馬車道	平戸橋附近	六〇〇	西南西—南西	猛烈
	一八、〇〇	!	!	櫻木町七丁目		二〇〇	西—河上ニテ北ニ變ズ	中

表中ノ時刻、行程ハ大凡ノモノデ、只目安ヲ示スニ過ギズ、程度ハ旋風ノ生命ノ大小ニ關ハラズニ其猛烈サヲ小、中、大、猛烈ノ四階級ニ區分シテ當テ嵌メタモノデアル。消滅時刻、及其地點ハ今回ノ如キ場合ニハ不明瞭ナルコトガ本當ラシイガ、幾人カガ次ギト遭遇シタ同一旋風ニ對シテハ參考ノタメ最後ニ見タ地點及時刻ヲ記シタ、圖ニハ横濱ノ火災ニ添ヘテ旋風ノ狀況ヲ示シテアル。

實況 如上二十九個ノ旋風ノ實見者ノ談話中デ代表的ノモ數個ヲ記セバ、

三ノ二 神奈川町元町、午後三時頃神奈川町元町附近ニ旋

風起リ「トタン」板等ヲ高ク卷キ上ゲタ(川名技手手記)

○神奈川方面ニハ三時カラ四時頃龍卷アリ、「トタン」板ヲ卷キ上ゲ「ツーン」ト落ス、「バケツ」ヲ被ブツテ遁ゲル。(藤原博士手記)

四 高島町八丁目、午後三時二十分頃、高島町八丁目見橋附近ニ旋風起リ山積シアリタル砂及「トタン」板等ヲ卷キ上グ、其高サハ三十間乃至四十間ニ達シ、同四時半頃ニハ高島町五丁目附近ニ來リ「トタン」板ヲ卷キ上ゲ疊等ヲ電柱ノ上アタリ迄モ卷キ上ゲタ、附近ノ石油槽所ヨリ流出セル石油ニ延焼シ火焰甚シク高ク昇リ猛烈ヲ極メ物凄カツタ。同五時頃ニ

ハ高島驛附近ニ來レリ、同所ニ避難セル松本信太郎氏ノ語ル所ニヨレバ五時頃旋風來リテ荷車ノ上ニ避難シ居リタル病人ハ車ノ側ニ落チ同氏一家九名ハ南西方へ約十間モ持チ行レタ、其途中ノコトハ一向不明ナレドモ一同無事ダツタト云フ。(川名技手手記)

○三時平戸橋ノ家ヨリ遁ゲ出シテ四時頃高島驛ニ着イタ、着クト間モナク火ガ移ツテ來タカラ、神奈川ノ方へ遁ゲ様トシタケレドモ、築地橋ガ落チテタノデ行カレズ、此所(高島驛廣場)デ避難シテ居タ、五時頃ニナツテ「ライジングサン」石油會社ノ方デ非常ニ大キナ音ヲ立テタカト思フト「トタン」板等ヲ高ク捲キ上ゲテ向ツテ來タ、此時此處ニヤハリ避難シテ居タ病人ヲ乗セタ荷車ハ、轉倒シテ病人ヲ落シテ車ノミ飛ンデ行ツタ。(井上書記手記)

五ノ二 神奈川町宮之町、此處デハ午後三時半頃猛烈ナル旋風ガ物凄ク火焰「トタン」板等ヲ捲キ上ゲテ居ル爲メニ消防署ノ「ポンプ」自動車ハ前進スルコトガ出來ナカツタ。(川名技手手記)

九ノ一 翁橋附近、松影町四丁目ノ松村石油河岸デ起ル、午後八時頃カラ九時頭ノ間デ、捲キ上ゲテ東方へ落トス。(瓦久氏方若者談、藤原博士手記)。

○六時頃松影町五丁目ノ角ニテ旋風五六回起ル、附近ガ既ニ

燒ケ落チテカラ起リ、長サ二間位ノ燒柱ヤ「トタン」板、瓦等ヲ電柱ノ二倍位ノ高サマデ捲キ上ゲテ長者町ノ方(北西方)ニ落トシタ。(井上書記手記)

九ノ二 市役所裏、市役所ガ燒ケテ居ル最中、夕方旋風ガ七、八回起ツテ「トタン」板等ヲ五十尺位迄捲キ上ゲタ、ソシテ電柱等ニカナリヒツ掛ツタ。

○夕方五六回市役所方面カラ川ニ沿フテ旋風ガ來タ、此時「トタン」板等ヲ二三十尺高ク捲上ゲテ尾上町交叉點(馬車道)ノ方ニ去ツタ。(吉田橋下河中ニ避難シ居リシ實見者談)

○旋風ハ日ガ暮レテカラ十時頃迄アツタ、多クハ豐國橋ノ方カラ來テ正金銀行ノ方ニ去ツタ、百五十尺位ノ高サマデ「トタン」板ヤ瓦等ヲ捲キ上ゲタ。

○吉田橋附近ニテ旋風ハ五時ガ六時頃「トタン」板ヤ燒ケタ材木等ヲ八十尺位捲キ上ゲテ關内ノ方カラ伊勢佐木町ノ方ニ向フ。

○夕方少シ前ニ眞砂町ノ方カラ「トタン」板等ヲ捲上ゲテ來タ、ソシテ吉田橋ノ邊カラ曲ツテ櫻木町ノ方ニ向ツテ行キ「トタン」板等ハ一尺位ニ見ヘタ。(以上井上書記手記)

九ノ四 櫻木町七丁目、附近ニ午後六時頃起コリタル旋風ハ川岸ニ沿ヒテ進ミ花咲町九丁目ヨリ南西ニ折レ掃部山ノ西側ヲ過ギ火焰ヲ捲キ上ゲテ戸部三丁目ニ出デ山王山方面へ進

## ム。(川名技手手記)

九ノ五 櫻木町七丁目横濱驛前、午後六時頃横濱驛附近ニ旋風起リ火焰ヲ捲キツツ平戸橋方面へ來リ、南西へ去ル。(川名技手手記)

十ノ一 馬車道、伊勢佐木町吉田橋際、地震後間モナク火事、火ノ手ハ東手ニ上ル、吉田橋ヲ渡リ尾上町方面ニ又火ガ上ガル、引キカヘス、吉田橋ノ際デ火ニ卷カレ船ニ入ル、水ニ入ル、附近燒ケ落チテ後水カラ出ル、夕方旋風起ル、初メハ湊町五丁目ニ起リ、其後火ノアル所へ諸方ニ起ル、伊勢町方面ニモ起ル、東ノ方面ハ不明、後チ野毛山ニモ起ル、火ノ柱立チ、燃エサシ、「トタン」板等ヲ捲キ上ゲテ落スノデアブナクテ皆ワアート云フテ逃ゲ込ム、高サハ随分高シ。(藤原千壽保氏談藤原博士手記)

○吉田橋ノトコロデ、夕方馬車道ノ方カラ旋風ガ來タ、又指路教會ノ附近カラモ起ル、共ニ「トタン」板ヲ二三十尺モ捲キ上ゲル、方向ハ不明。(井上書記手記)

十一 櫻木町七丁目、午後七時頃復タ横濱驛方面ニ旋風起リ、最初ハ(九ノ四)ト同様ノ道ヲ採リ猛進シタルモ櫻木町五丁目邊ヨリ更ニ西進シテ掃部山ノ東側ヲ掠メテ野毛山方面ニ七時半頃達シ、ソレヨリ南西ニ折レテ去ル、九ノ四トコノ旋風ハ共ニ勢猛烈ニシテ其衝ニ當リタルモノハ樹木家屋ハ其渦

マク火焰ノ爲メニ爆發的ニ發火シ悉ク燃燒サレタ、宮崎町ニアル、正金俱樂部ハ爲メニ延燒シ同所ノ留守番男女六名ハ窒死シタ、(燒死シタノデハナイ)。(川名技手手記)

○櫻木町デ夜ニナツテカラ凄イ旋風ニ遭ツタ、ドコカラ來タカ解カラヌ、八時頃ラシイ。(井上書記手記)

○大神宮境内ノ燒ケル時(夕方)戸部方面(裏手)カラ旋風ガ來タタダ夢中デ解ラヌ。(同上)

○大神宮裏手ノ方デ旋風ニ遭ツタ、此時恰度十全病院ハ燒ケテル時デアツタ、方向ハ解ラヌ。(同上)

○大神宮境内前ニテ旋風ニ會ツタ、四時カ五時頃デ火ノ子ヲ吹キマクツテ來タカラワカラヌガ戸部ノ方カラ來タ。(同上)

○大神宮本殿前デ旋風ニ遭ツタ、此時本殿ハ燒ケ始メタ、恰度夕方デ本殿ノ燒ケル時ニ火ノ子ガ卷キ上ツタリ、木ガ飛ンデ來タガ、本殿ガ燒ケテカラハ來ナカツタ。(唯一回)(同上)

十二ノ一 扇橋壽警察署附近、長者町二丁目二十五番地附近ハ二時頃延燒シタ、此ノ附近一帶ハ松影町方面ヘカケテ遅ク燒ケタ、七八時頃壽小學校方面ヨリ旋風來リテ、壽小學校ノ西側ヨリ川ヲ越エテ千歲町ノ方ニ走ツタ、此ノ時旋風ガ川ニ沿フテ來ルトキニハ川ノ水ヲ稍持チ上ゲル様ニ見エ、又川岸ニ立ツテ居ルト霧ノ様ニ感ジタ、音ハ氣付カナイケレドモ回数ハ十回以上アツテ、イツモ「トタン」板等ヲ卷キ上ゲテ

來タ(高サ不明)、此時ハ既ニ附近ハ燒ケ落チテ居タ。(井上書  
記手記)

十三 櫻木町驛デハ旋風旺ナリシハ、八時頃カ、夜十二時  
頃吉田橋附近へ歸ル、燃エ終リ、死骸ダラケ、此邊ニモ旋風  
起ル。此爲メニ半燒ケノ船顛覆ス、船ガクル／＼廻ハル、水  
へハ入ラズ、三箇所一度ニ起ル時モアリ、區々ニ起ル。(藤原  
博士手記)

十四ノ二 長島橋、旋風ハ夜半ノ三時カ四時最モ強シ(?)  
日ガカゲツテカラ始マル、七時頃ナラン、船ヲ漸ク防グ、自分  
ハ染物屋デ客ノ品アル故ニ、最後迄残り居リシ故火元ハカナ  
リ知ツテ居ル、湯屋ト豆腐屋ト洋服屋、活版屋、「シノダ」製造  
屋、旭バー洋食店、田口石屋等カラ出ル、旋風ハ南方カラ始マ  
リキリ／＼ト卷キ始マツタナト思フ中見ル／＼中ニ通過シ、  
附近兩岸ニアリシモノ何所デモ皆上ゲル、落ル、自分ハ河ノ  
中デ縮ンデ居タ、附近ニハ誰モ見エナカツタガ、武藏橋ノ方  
ニハオアイ船ニ數人乗ツテ居ツタ。(藤原博士手記)

○豊國橋ノ上ヤ川ニ居タ人ハ旋風ヲ見ル、瓦斯管ノ様ナモノ  
飛ビ來リ水ニ入リテ爆發ス。(藤原博士手記)

○蓬萊町鶴ノ橋通リノ火事ハ、地震ト直グニテ三十分トハナ  
シ、直グ後ロノ金屬屋カラ出ル、女ハ船、男ハ河ニ入り水ヲ  
カケテヤル、午後三時頃ガ一番強シ此頃人ガ死ス、苦シイ。

旋風ハ夕方火ガ濟ンデカラ六時頃此邊一面持チ上ゲル、「トタ  
ン」板デモ何ンデモ持ツテ行ク、船ニ嚙リ付イテ居ル、旋風  
ハ山カラ來ル、一時間位ノ間來テハ西ヲ通ツタリ、東ヲ通ツ  
タリス。(藤原博士手記)

○酸素瓦斯倉庫(葛原)ニ火ガ入り管ノ口金ノ眞鍮ガ鎔ケ破裂  
シテ飛ンデ來ル、三時頃ナリ、多分他ノ管ノ破裂ノ爲メナラ  
ン、マルノ儘飛ンデ來テ水ニ入り水雷ノ様ニクグル、ピユ  
ート飛ンデ來ル、一人是ノ爲メ死ス、船ノ帆柱ニアタリ船  
ガヒツクリ返ヘル。(藤原博士手記)(以上二件自働車店員談)  
○長島橋附近ハ夜ノ八時半頃「トタン」板等ヲ卷キ上テ來タ、  
方向ワカラズ。(井上書記手記)

十四ノ三 千秋橋、火ハ山吹橋西袂車屋カラ出テ北ニ塵タ  
(一時頃)、向河岸ハ十二時頃、遁場ナクナリ小船ニ乗ル、朝迄  
居タ、夜三時頃漸ク樂ニナル、夫迄ハ水ヲカブツテ苦シム、  
熱イ、旋風ハ詳シクハ分ラヌ、「トタン」板ガ木ノ葉ノ様ニ飛  
ンデ來ル、「パイスケ」(一半偏平ナル大ザル)ヲカブツテ助カ  
ル、附近カラモ上ゲル、橋ノ袂デ大ノ男二人地割レニハサマ  
リ死ス、開イタリ、ツボンダリシタラシイ。(藤原博士手記)

十五 中村町揮發物貯庫、火ハ一時半頃北東カラ表へ向フ  
テ來ル、橋ノ方ト先トカラ來ル、夜旋風ガ起ル、三吉橋ノ東  
詰カラ西ニ見ル、夜八時頃カラ明ケ方迄カト思フ、「トタン」

板等風程ニ見エル、場所ハ此邊、貿易倉庫ノ上デ盛ニヤル、三間ヤ五間ハ動クモ大體ハ位置固定。(伊藤政七氏談、藤原博士手記)

○一時燃エル、倉庫ハ油ト紙トアリ、直チニ燃エル、角ノ藥種屋ト倉庫ガ早シ、旋風ノ無クナリシハ八時カ九時、船デ見ル、全部「トタン」ト紙トガグル、ブーント音シテ非常ナル勢デ上ゲ、後チ落ス、九時頃。(瓦久氏談、藤原博士手記)

○揮發倉庫ニテハ旋風六時頃起リ樽ヲ卷キ上ゲル。(第二消防署員談、藤原博士手記)

○南西カラ火ガ來ル、旋風ハ向フ河岸ノ石油(?)倉庫ニアリ小金町カラ見ル、最後迄(三時過ギナラン)居リテ船ニ遁ゲル。船ハ過半數堀ノ内方面ニ遁ゲル。(藤原博士手記)

○衛生試驗場附近ニテハ夜ノ八時カ九時頃カラ燒ケ出シタ。七時カ八時頃ヨリ旋風三回起リ「トタン」板ヤ揮發ノ空樽ヲ二十間モ高ク卷キ上ゲテ山ノ根南東ニ落シタ。(井上書記手記)

○此附近ハ七時頃旋風數回起リ石油揮發油ノ空罐ヲ裏山ヨリ十間モ高ク卷キ上ゲタ。(山ノ高サ五一・九米)(井上書記手記)

結論 當時人々ハ刻々ニ迫リ來ル惡魔ノ手ヨリ如何ニシテ免レンカト焦燥シ、狼狽シテ、眞ニ身モ世モナカツタ急場デアツタカラ、火災ヤ旋風ノ發シタ時刻ヤ、進ミ行ク方向等ハ注意ノ外ニ置カレタコトハ當然デアル、而シテ予等ガ本調

査ヲ始メタノハ災後約半歳ヲ經テ、人々救急「バラック」ヲ出デ舊居住地ノ半永久「バラック」ニ歸リ、將サニ營業ヲ再開セントスル際ヲ狙フタノデアル、故ニ人々ノ記憶モ朦朧トナツテ居リ、調査ニハ隨分苦シダ、前ニ掲ゲタ表ニ記シタモノハ多數ノ人々ノ談話ヲ綜合シテ最モ眞ニ近シト思ハル、モノ、ミデアルガ、併シ尙ホ時刻等ハ一二不安ノモノ無キニシモ非ズデアル。此表以外ニ小規模ノ旋風ハ多數アリテ、殆ンド到處發生シタト稱シテモ過言デナイデアルガ、如斯ハ省略シタ併シ顯著ナルモノハ殆ンド全部ヲ網羅シ得タツモリデアル。

今次ノ旋風ノ模様ヲ見ルニ強勢ナルモノガ必ズシモ進行スルトモ限ラズ、又進行スルモノモ、風ニ逆フモノアリ、從フモノアリテ一樣デハナイガ、大體ニ於テ風ニ從ツテ流レタ様デアル。又進行セズシテ一箇所ニ停滯セルモノ、又ハ短距離ヲ走ツタモノ、多クハ餘燄ニ煽ラレテ生ジ火焰ノ後面ニ跟隨シタモノデ、眞ノ陣風線ニヨリ釀成セラレタカト思ハルモノハ風向ニ從フカ乃至ハ風向ガ從フカノ模様ガ見エル。

旋風ノ發生シタノハ火事ガ下火トナツタ、十六時乃至十九時ノ間ガ最モ頻繁デアツタ(十五時頃燒跡ヲ通行出來タ所モアツテ、十八時頃ニハ大抵ノ所ハ鎮火シタ)ガ、二十時過ニモ火氣ニ煽ラレテ二三發生シタ、尤モ十五ハ揮發物貯庫ガ尙ホ燃燒中ニ發シタモノデアル。